

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2019年3月23日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子		
<p>検証テーマ：震災から8年で三陸の鉄道つながる、オープニング、マララさんが都内で講演、ロシア疑惑 シリアのイスラム国拠点の街が陥落、横田早紀江さんが講演</p> <p>【特集】ゲノム編集食品～可能性と課題～</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災から8年で三陸の鉄道つながる ・オープニング ・マララさんが都内で講演 ・ロシア疑惑 ・岐阜県内で12箇所目の豚コレラ確認 ・名古屋市港区で60代男女の遺体が見つかる ・シリアのイスラム国拠点の町が陥落 ・40年目のSLやまぐち号出発進行 ・阪急電鉄の「京とれいん雅洛」 ・茨城県鹿嶋市で火災 ・横田早紀江さんが講演 ・静岡県沼津市の水族館で8年ぶりにゴマフアザラシの赤ちゃん ・【特集】ゲノム編集食品～可能性と課題～ ・【特集】児童虐待～最前線からの報告 ・スポーツ報道 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災から8年で三陸の鉄道つながる：結論→特に問題なし <p>第三セクター三陸鉄道リアス線163キロが一本のレールで結ばれたのです。今日は公募で選ばれた一般乗客、来賓を載せた記念列車が運行されました。今日開通したのは宮古駅と釜石駅の間55.4キロの区間は三陸鉄道北リアス線と南リアス線に挟まれていた旧JR山田線で震災により不通となっていたがJRが復旧させた上で今日から三陸鉄道に運営が引き継がれたこと、これにより三陸鉄道は北の久慈駅から南の大船渡市盛駅まで163キロが三陸鉄道リアス線として一本のレールで繋がり国内で最も長い第三セクター鉄道が誕生したことになること、今日は震災による列車の不通区間が8年ぶりに解消された記念すべき日となったとのが伝えられた。このトピックに当てられた時間は秒で放送法上は特に問題は見られなかった。</p> ・オープニング：結論→特に問題なし <p>オープニングでは金平キャスターがスタジオで「子どもへの虐待が社会問題化する中、今週、児童虐待防止法などの改正案が閣議決定されました。虐待は社会の歪が弱い部分に向けられたものです、大事なことは私達一人ひとりが他人事だと思わないことだと思います、今日の特集でお伝えします。」とコメントしていた。このコメン</p> 		

トに当てられた時間は 18 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・マララさんが都内で講演：結論→特に問題なし

2014 年にノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんが都内で開かれた国際会議で講演を行ったとのこと、講演でマララさんが「すべての少女たちが中等教育を修了すれば 30 兆ドルもの経済効果がある。女子教育に投資すれば想像を超えた未来が待っている。」と世界の指導者に対し女子教育に投資をするよう訴えたことが報じられた。

マララさんの講演に先立ち安倍総理が「2020 年までの三年間で、少なくとも 400 万人に登る途上国の女性たちに質の高い教育、人材育成の機械を提供してまいります。」と、すべての女の子は少なくとも 12 年間の質の高い教育にアクセスできる世界を目指すことを首脳たちと確認すると強調したとのことともあわせて報じられた。

また、マララさんについては、パキスタンで女性が教育を受ける権利を訴えていたこと、15 歳のときにイスラム武装勢力から頭に銃撃を受け瀕死の重傷を負いイギリスで治療を受けて回復したあと 2014 年には 17 歳という史上最年少でノーベル平和賞を受賞したこと、現在はイギリスの大学に通い女子教育の推進に取り組んでいるとことが伝えられた。

このトピックに当てられた時間は 134 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・ロシア疑惑：結論→特に問題なし

アメリカのバー司法長官は 22 日に連邦議会上下両院の司法委員長らに所管を出し、ロシア疑惑を巡るモラー特別検察官による捜査が終わり報告書の提出を承けたことを伝えたこと、早ければこの週末にも議会に対し報告書の結論を伝えるとしているとことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 59 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・シリアのイスラム国拠点の街が陥落：結論→特に問題なし

アメリカの支援を受けるクルド人主体の部隊であるシリア民主軍がイスラム国最後の拠点バグズの制圧を宣言したこと、イスラム国は最後の支配地域を失ったことになるがシリア民主軍はバグズ周辺には多くのトンネルなどが残されていて、バグズを脱出したイスラム国の残存勢力が一般市民に紛れて今後散発的に抵抗する可能性があるとして指摘しているとのことが報じられた。また、これに先立ちアメリカホワイトハウスのサンダース報道官は 22 日記者団に対し、イスラム国がシリアで支配していた地域を 100%奪還したと発表したことも伝えられた。

このトピックに当てられた時間は 81 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・横田早紀江さんが講演：結論→特に問題なし

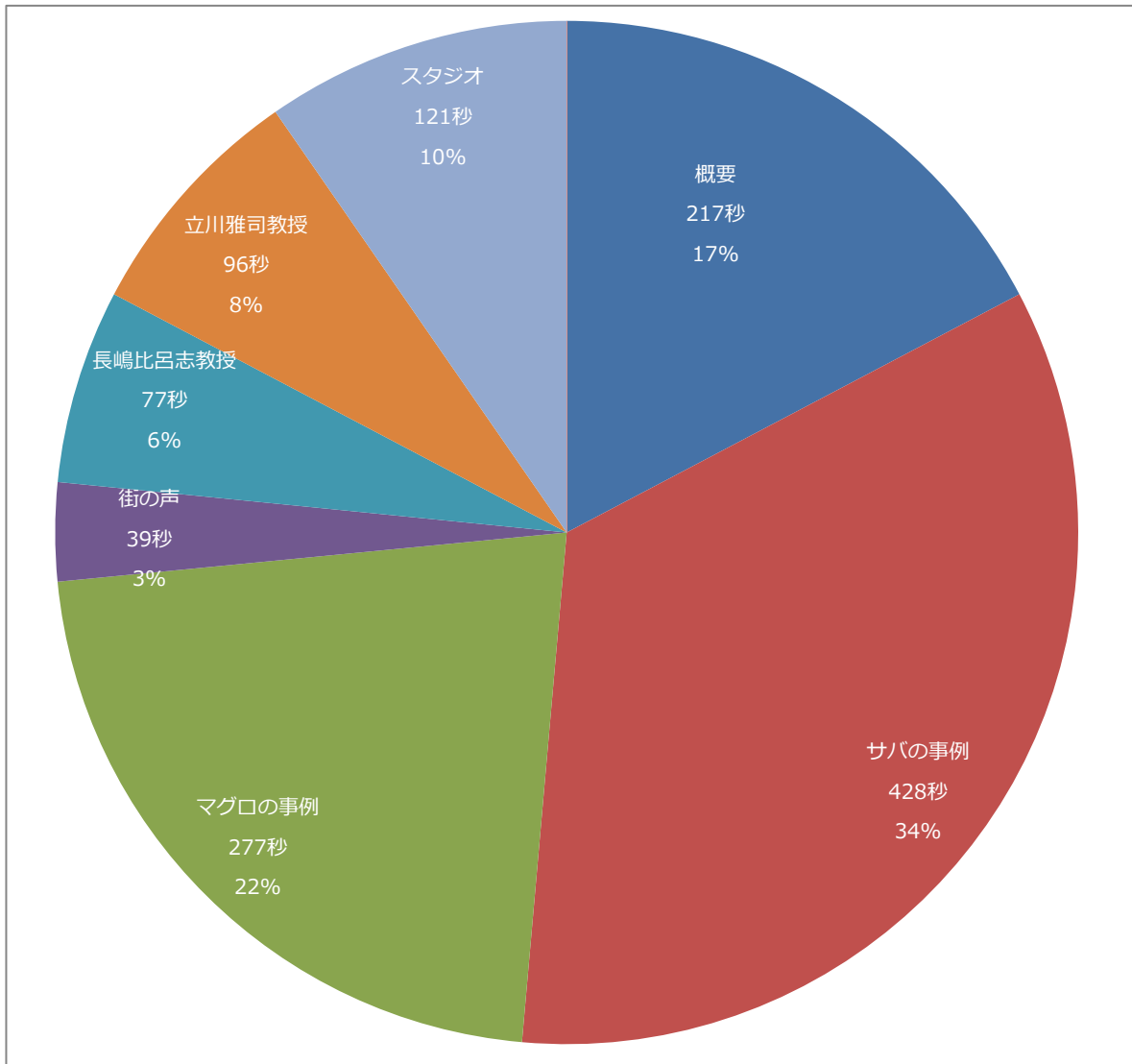
拉致被害者の横田めぐみさんが一年生のときに通っていた東京品川区の小学校で、母親の早紀江さんが講演を行い拉致問題の一刻も早い解決を訴えたとのことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 63 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】ゲノム編集食品～可能性と課題～：結論→放送法の観点から高く評価

ゲノム編集食品について特集で取り上げられていた。この特集に当てられた時間は秒で、特集はゲノム編集を巡るテーマの概要を説明する部分と、ゲノム編集とその活用の研究としてサバの事例とマグロの事例、ゲノム編集食品についての街の声、ゲノム編集の研究を行う明治大学の長嶋比呂志教授の見解、名古屋大学で社会環境学

を専門とし遺伝子組みあけ食品やゲノム編集食品に関する世界各国の姿勢に詳しい立川雅司教授の見解を取り上げた場面とスタジオでのやり取りの場面に大別された。

時間の配分及び比率は以下の通りである。



サバの事例については VTR で以下に朱記したように取り上げられていた。

ナレ「取れたての魚が並ぶ産直市場。海からの漁獲量が頭打ちとなる中、持続的な供給をかなえる方法として、注目されているのが、卵の孵化。飼育、採卵を人工的に繰り返す、完全養殖だ。」

膳場「佐賀県、唐津市の市場に来ています。鮮魚売り場の中にある、この一際大きなこのいけす、泳いでいるのは、唐津で完全養殖に成功した、鯖です。地元のブランドととして人気なんです、ただ養殖が難しいために流通量がまだ少ないんですね。」

ナレ「サバは、神経質でストレスに弱い、完全養殖が難しい魚の一つだ。5年前、サバの完全養殖に成功した研究所は、今、新たな試みに挑戦している。それが、サバのゲノム編集だ。特別にその内部を見せてもらった。」

膳場「これはなんで囲ってあるんですか？秘密だからとかそういうことですか？」

(CM)

ナレ「生物の遺伝子情報を改変するゲノム編集。九州大学の賀賀ひろふみ助教らは、この施設でゲノム編集を使った研究に取り組んでいる。」

"大賀助教「この中に、ゲノム編集を施したサバを飼育しています。非常におとなしく、共食いをしないような、優しいサバになっているんじゃないかなあと」

膳場「優しいサバ？」

大賀助教「ええ。」

膳場「へー」"

ナレ「試みているのは、サバの性格を変えること。養殖につきものの課題を克服するためだ。」

大賀助教「水槽の中で激しく共食いをする性質がありまして、それによって、まあせっかく作ったそういった子供たちがどンドンどンドン減耗して、減ってしまうんですね。」

ナレ「これは通常のサバの稚魚。一回り小さいものが攻撃を受けている様子が分かる。狭い水槽の中に入れると、神経質なサバは、激しく共食いし合い、ほとんどが死んでしまうという。」

"大賀助教「だいたい、8センチから10センチくらいの大きさに卵からなるときに、1割以下しか生き残らない。」

膳場「ほとんど死んじゃう？共食いしてしまうということですか？」

大賀助教「ええ。大部分の原因がそういった共食い行動によるものですね。なのでそういったお互いを攻撃し合うような性質を、なんとか抑えることができないかというふうに考えまして・・・」"

ナレ「どうやって、ゲノム編集を行うのか。その方法は、直径およそ1ミリにサバの受精卵にゲノム編集のための物質を注入するという、いたってシンプルなものだ。」

大賀助教「この先端が1ミクロン。我々が一番サバのゲノム編集で苦労したのが、受精卵に注射するためのこの、針作りで」

ナレ「注入する物質には、狙う遺伝子まで運ぶガイド役のたんぱく質と、はさみの働きをする酵素が入っている。ガイド役が標的となる遺伝子を見つけ出し、その部分にとりつく。続いて、はさみが遺伝子を切断することで、その機能を失わせるのだ。大賀氏の研究チームは、サバの攻撃性に関わる遺伝子をゲノム編集によって切断。共食いはどのくらい減るのか観察している。」

膳場「普通のサバだと、これぐらいになるまでに10分の1と、おっしゃいましたよね。このゲノム変種したこのサバは、どのくらいですか？」

大賀助教「私が育てましたけれども、4割くらい残りました。まあ正確なデータでは、まだないんですけども、十分に手ごたえを感じることはできる。なので、今まで1割しか残らなかったものが、4割残るようになると、」

"大賀助教「作り出すことができる魚の数が、単純計算で倍になるわけですね、なので、生産者さんや漁業者さんにとっては、今までと同じコスト、労力で、4倍もの魚を作り出すことができる」

膳場「なるほど、それはおおきいですね。」

大賀助教「全然違うと思いますね。」"

ナレ「現在、開発されているゲノム編集食品のほとんどは、その生物自身の遺伝子を切断する方法で作られている。一方遺伝子組み換えは、ある生物にほかの生物の遺伝子を組み込む技術だ。大賀氏は、ゲノム編集と、遺伝子組み換えは、異なる技術だと強調する。」

大賀氏「ゲノム編集というのはですね、まあ、天然にも存在している偶発的な突然変異、あとは、従来型の育種・品種改良で行ってきたものと、基本的にはもう、同じものです。遺伝子組み換え食品とは、もうまったく別のものだというをまあまず理解をしていただきたいというふうに思っております。」

ナレ「ただ、ゲノム編集技術に関する国の法整備が進んでいない中、研究者たちも、扱いには慎重だ。この研究所では、ゲノム編集したサバが自然界に逃げ出さないよう、水槽の上や排水溝に網をかけるなど、管理を行っている。」

大賀「まあこういった遺伝子を何かしているという技術に対して、一般の方々がどうしても不安に思ってしまうというのは、仕方がないことかなあと思っています。なのでこういったゲノム編集技術というものが、従来の遺伝子組み換え技術とどう違うのか、どういうふうに革新的なのかという部分について、まず我々研究者がですね、一般の方々にも、わかりやすいように丁寧に説明をしていく、そういった姿勢が重要だと思っておりますし、まあ実際にそういったことをしていきたいなあというふうにも考えていきます。」

マグロの事例については VTR で以下に朱記したように取り上げられていた

ナレ「マグロの養殖で、日本一の生産量を誇る長崎県。ここ、長崎市内にある研究センターで、ゲノム編集マグロの研究が進められている。研究の指揮を執るのは、げんこういちろうセンター長。5年前から開発に懲り組んできた。」

玄センター長「マグロというのが、えーとまあ資源がですね、減少してってですね、あの一やはりそれを人工的に作って、供給するってのが、急務になっているんですね。ここ 10 年くらいでも、だいたい、4分の 1 くらいにへってですね、まあ過去最低の水準になっています。」

ナレ「絶滅危惧種に指定されているクロマグロ。研究のきっかけとなったのは、養殖の現場で、生産性の向上を阻んできたマグロ特有のある性質だった。」

玄氏「マグロというのはですね、神経質っていうか、刺激とかに対して、非常に敏感でですね、敏感なことがですね、原因となって、衝突死というですね、減少になって、そこで生産効率が非常に落ちるということになる。私たちの今までの経験から言えば、だいたい光ですね。あの例えば養殖業者さんのほうにですね、車のヘッドライトが当たったぐらいだけでも、もう狂奔なんですね、もう狂ったように驚、反応して結局、そういう時は人間もそうですけど、パニック状態なんで、すごいスピード、だいたいそうですね、時速 60 キロぐらいといわれてますけども、結局止まれなくてですね、壁にぶつかっちゃうと」

ナレ「この写真は、衝突した養殖マグロをとらえたものだ。マグロー匹が衝突死するだけで、養殖業者にとっては、大きな損失になるという。」

玄氏「いっぴきですね、20 万近いようなマグロが、いきなり死ぬっていう、まあ場合によってはですね、大量に死ぬということもあり得るので、それは生産者の方にとってはですね、非常にまああの、すごい甚大な、経済的な損失を与えると。」

ナレ「こうした声を受け、取り組んだのが、おとなしいマグロの研究だった。研究所で産ませたマグロの卵に、ゲノム編集を行う。過敏な性格に関わる遺伝子を抑制すれば、おとなしいマグロが誕生すると考えたのだ。」

玄氏「まずは刺激に対して、鈍感だと。鈍感になんきゃ。あとはもう一つは刺激後の遊泳スピードですね、それをもう少し軽減軽減できないかということをやってるわけです。」

ナレ「4年前、世界で初めて、色素がないゲノム編集マグロの開発に成功。その後研究を重ね、去年春、おとなしいマグロの学会発表に漕ぎつけた。現在、ゲノム編集マグロの大きさはおよそ 10 センチ。これ以上大きくするためには、海上のいけすなどでの飼育が必要となる。しかし、いけすの外へ、ゲノム編集マグロが流出した場合の生態系への影響分かっておらず、実施への環境は整っていない。さらに、消費者から心配の声が上がっているのが、食品としての安全性だ。」

玄氏「ゲノム編集魚の安全性に関しては、こういうものとかこういうものと、調べる必要があるというようなですね、科学的なエビデンスをだして、それをもとにですね、まああの、ガイドラインを決めていくっていうような、ことをやっていかなければいけない。例えば、環境影響に関わる評価とか、あの一やっぱりそこは、流通にあたっては非常に不可欠なものですので、マグロはそもそもまだ、流通段階には達していないっていうことになりま

す。」

"ナレ「そのうえで、こう強調した。」

玄氏「今の、ゲノム編集の場合は特に急速に進展、発展してるんで、ゲノム編集技術の発達と社会の熟成というのがどうもあってないなっていうのを感じて、その辺はちょっとある程度埋める必要があるかな。」 "

街の声については VTR で以下に朱記したように取り上げられていた。

膳場「ゲノム編集ってそういうどんなイメージをお持ちですか」

"男性「実際自分が食べるとなると、ちょっと心配な部分、食品の遺伝子組み換えとかと同じような考えですよ。」

膳場「技術はちがうんですけども」

男性「違うんですか？」 "

男性「食品は特に自然食のほうが良いですね。なんかそういった人工的なものを加えて、あんまりいい結果は出ないんじゃないですかね。」

女性「安心安全で、その安くて、それで食べらるって言ったら、たぶん、消費者も納得言ってお買ってくれるじゃないかな」

長嶋比呂志教授の見解は VTR で以下に朱記したように取り上げられていた。

ナレ「早ければ、今年の夏にも、ゲノム編集食品が市場に流通する見通しだ。豚などの家畜を使ったゲノム編集の研究を行う明治大学の長嶋比呂志教授。食品に関して、普及のハードルは高いと考えている。」

長嶋教授「少々の付加価値だと、結局、その一どっちを選ぶかという選択で、あまり、そうですね、あのゲノム編集のほうを選択する人ってのは、多くない？安全安心の安心の部分、心情的な部分。が非常に強いので、特に日本も消費者動向はそこが非常に強いので、だからそのメンタリティーが変わらない限りは、受け入れられるとはちょっと私には思えない。」

ナレ「一方、安定的な食料確保や、品質の向上以外に、こんな可能性を考えられるという。」

長嶋教授「今、日本、トンコレラがこう蔓延して大きな問題になってますけど、家畜の病気に対する対策ですね、そういうことから、ゲノム編集が非常に有効であるということが分かって来たら、ゲノム編集をとりえざるを得ない。」

立川雅司教授の見解は VTR で以下に朱記したように取り上げられていた。

ナレ「現在、遺伝子組み換え食品については、表示が義務付けられている。遺伝子組み換え食品やゲノム編集食品に関する世界各国の姿勢に詳しい名古屋大学の立川教授。ゲノム編集食品の表示を義務化することについては、」

立川教授「表示ということではなかなか難しいのかなというように思います。」

ナレ「ゲノム編集食品の検査し、遺伝子の変化があっても、それが自然の変異か、ゲノム編集による人工的な変異か判断できないからだ。」

立川教授「例えばその、スーパーに行くとですね、お豆腐とかを買って、検査する訳ですね。検査した時にそのゲノム編集の場合はですね、こう変わっていると。でもこれが自然の由来なのか、人工的なかわからないわけですよ。ではこれが違反しているんでしょうか。違反してないんでしょうかが区別できないわけですね。」

ナレ「そのうえで、事業者側に求められるものは」

立川教授「どういった作物、どういった品種をですね、可能であれば、わかっていると思うんですね、まあそう

いった情報をですね、事業者間である程度共有してですね、ウェブサイトとか、そういった形になると思います
が、積極的に情報提供するというのが、望ましいんじゃないかなと。」

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられていた。

膳場「町でね伺いますと、ほぼ全員がゲノム編集食品に対して、まあある程度の不安を感じていました。口に入れる食べ物ですからね、安全性に対する消費者の目は厳しいということは置き去りにはしてはいけないと思
います。ただ今回認められたゲノム編集というのは、外から遺伝子を持ち込む遺伝子組み換えとは別物です。あの品
種改良っていうと私たちにもなじみがありますよね。突然変異の個体を取り出してきて、品種改良していくわけ
ですよあの今回取材したゲノム編集というのは、その品種改良の時間を短縮するのと同じだという説明を聞き
まして、私自身は抵抗感が薄れました。」

金平「まあ、僕の印象で申し訳ないんですけども、やさしいサバとかね、魚の性格を変えてしまうというのは、
あんまりこう私は、気持ちよくないなという気がするんですけども、あの日本消費者連盟の抗議文というものを
じっくり呼んだんですけども、厚労省の今回の決定について、食の安全を守ることを放棄したもので、消費者と
して到底受け入れられるものではないという、厳しいトーンですね。特に表示を行わないとなれば、消費者の知
る権利ってのが、奪われることになると思はれる点とはとても重要だと思いますね。なにかこう、政府と研究者と
消費者の間でですね、大きな意識のギャップがあるんじゃないでしょうかね。」

日下部「あのゲノム研究の世界では、今ね、アメリカと中国の激しい主導権争いが繰り広げられていて、特に
ゲノムを解析する先端の機器を巡ってはですね、アメリカが圧倒的なシェアを誇ってきたんですけども、中国が
猛烈にこう追いついてきているんですね、まあなんかこう技術面での主導権争いに振り回されて、ゲノム編集の
ですね、倫理・道徳面からの考察ですとか、ルール作りがとてついでいていけないようなそんな印象を受けま
すね。」

ゲノム編集を巡って、研究開発側と消費者の声、そして研究者の声と様々な立場の声を拾い上げており、放送
法第四条一項四号の「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」
と照らし合わせても高く評価できる特集であったと言える。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・【特集】ゲノム編集食品～可能性と課題～

スタジオでは日下部キャスターが「ゲノム研究の世界では、今ね、アメリカと中国の激しい主導権争いが繰り
広げられていて、特にゲノムを解析する先端の機器を巡ってはですね、アメリカが圧倒的なシェアを誇ってきた
んですけども、中国が猛烈にこう追いついてきているんですね、まあなんかこう技術面での主導権争いに振り回
されて、ゲノム編集のですね、倫理・道徳面からの考察ですとか、ルール作りがとてついでいていけないよう
なそんな印象を受けますね。」とゲノム編集を巡るグローバルな状況に言及していた。倫理・道徳面からの考察
やルール作りが追いついていないのは、技術の進展の早さもさることながら、アメリカと中国を始めとした国際
社会でこうした技術をめぐっての倫理や道徳ではまだまだ共有できていないということもあるのではないだろ
うか。

今回の特集では VTR は国内に焦点を当てていたものであったが、日本産のゲノム編集食品の海外への輸出という話はあたりするのだろうか、気になるところである。

日本以外の国でゲノム編集食品がある程度普及する、ということになれば、そうした状況を受けて日本でも消費者の意識が変化するという可能性もあるだろう。

いずれにせよ、今後も注目に値する興味深いテーマであると言える。